

台東区立平成小学校様



学校版ケーススタディを活用した仕事の見直しと相互理解



背景

台東区立平成小学校は、全校児童数約200名で1学年あたり1~2学級で編成されている中規模校である。教員数は16名で、そのうち初任者が3名在籍している。「優先順位をつけて仕事をする視点」や「教員同士の相互理解」をテーマに、学校版ケーススタディのモニターを引き受けていただいた。

導入

小学校教諭を対象に、10の案件を提示し「緊急度」「重要度」に分けてマトリックスを作成していただいた。グループで意見を共有したのち、「優先順位設定」「問題分析力」「組織計画力」に関する情報を提供し、視野を広げて物事を捉えることや組織として課題にどのように取り組むか、振り返る時間を設けた。

効果

受講者からは「自分だけで仕事をしようとする傾向にあると感じた」「細かいものを先に片付け、案件の総数を減らしていくスタイルだと気づいた」「グループで話し合うことで思考が整理された」「何でも自分一人で解決しようとせず、周りの人たちに頼ろうと思った」など仕事の進め方を考えるきっかけになったという声が寄せられた。

<学校版ケーススタディから得た学び>

- ・ 事案の7割を、Aの領域に入れてしまっていて、日頃から、自分で自分を忙しくしていた。
- ・ 先輩教員方のタイムマネジメント、優先順位の付け方を知ることができました。
- ・ 重要度の高いものから手をつけ、緊急度の高いものにならないようにすること。



<研修についてのご意見>

- ・ 働き方改革をするにあたって、よい気づきがあると思う。
- ・ 自分の業務を見直す機会は日常の業務の中では時間を取れないので、こういう研修が良い機会だと思いました。
- ・ 教員間では日常なかなか行わない研修であり、今後を担う若い先生方にとって有意なものであると感じた。
- ・ じっくり仕事の優先順位を考えることはないのですが、普段から意識をして仕事をしていきたいと思う。
- ・ 仕事や処理の仕方など日々追われて仕事しているが、改めて見直すことができる。頭の中が整理できる、そういう時間も大切だと思った。
- ・ 研究発表、研究授業では、いまの若手がかかえる課題を解決できない。時間の使い方、組織力向上の研修を受ける必要があると考えている。

<副校長先生からのコメント>

- ・ 職層や歩んできたキャリアによって、優先順位が様々だったところも興味深かったです。早速、研修後の夕会では、電話対応の話になりました。伝言を受ける場合は、どんな用件なのかを詳しく聞くことを確認しました。